

研究者の実践共同体と 知識の創造

近畿大学経営学部
筒井 万理子

本報告の構成

1. はじめにー経営学における「実践共同体」概念の検討ー
 - (1) ナレッジ・マネジメントにおける「実践共同体」の意義
 - (2) 「実践共同体」の事例とその調査のあり方

事前配布部分

・ 実証研究ー研究者たちで構成される実践共同体と知識の創造ー

3. 結果と考察
4. まとめ

2

1. はじめに

—経営学における「実践共同体」概念の検討—

(1) ナレッジ・マネジメントにおける「実践共同体」の意義

- 「実践共同体」概念を提唱したLave and Wenger (1991) の研究

「知識」と「実践」を切り離したテキスト中心の教授法への批判：「特定の「与えられた」科目内容を、特定の子供がいかにして理解に達するかということに焦点が置かれた（邦訳本の佐伯による解説、184頁）」教授法からいったん離れ、徒弟制をモデルに学習プロセスを明らかにしようとした。

「新参者が実践共同体の一部に加わっていくプロセス（邦訳本2頁）」

産婆、仕立て屋、操舵手、肉屋、断酒中のアルコール依存者の事例を挙げている。

- Lave and Wenger(1991)によって提示された「実践共同体」概念を経営学に援用した初期の代表的研究はBrown and Duguid (1991)である。経営組織における仕事・学習・イノベーションを説明する中核概念とした。
 - Wenger, McDermott and Snyder(2002) は知識をマネジメントするための施策が数多く提示した。2002年に邦訳本が出版されたことにより、日本のナレッジ・マネジメント研究者に「実践共同体」概念が浸透したと言えよう。
- 「コミュニティ育成の原則」「コミュニティ・コーディネーター」など多数

実践共同体と他の組織構造の違い

Wenger et al. (2002) より

	目的は何か	メンバーはどんな人か
実践コミュニティ	知識の創造、拡大、交換、および個人の能力開発	専門知識やテーマへの情熱により自発的に参加する人々
公式のビジネスユニット	製品やサービスの提供	マネジャーの部下全員
作業チーム	継続的な業務やプロセスを担当	マネジャーによって配属された人
プロジェクトチーム	特定の職務の遂行	職務を遂行する上で直接的な役割を果たす人々
関心でつながるコミュニティ	情報を得るため	関心を持つ人となら誰でも
非公式なネットワーク	情報を受け取り伝達する、だれがだれなのかを知る	友人、仕事上の知り合い、友人の友人

Wenger et al.(2002)野村恭彦監修・桜井祐子訳の邦訳本82ページより抜粋。

5

(2) 「実践共同体」の事例とその調査方法

・ Wenger et al. (2002) で挙げられた事例 (一部) : ダイムラー・クライスラーのエンジニア、ゼロックスの修理営業マン、シェル石油の深海調査

調査方法: インタビューなどの一次データや、資料や記事などの二次データであると推測される

・ 松本 (2019) で挙げられた事例 (一部) : 陶磁器産地における実践共同体、教育サービス会社における実践共同体

調査方法: インタビューと観察調査

6

実践共同体に関して定性的調査が採用される傾向にあるのはなぜか

- 組織構造のように明示化された組織とは違い、境界が曖昧で有機的に進化する組織であるため、数値化や文章化しにくい現象を扱う定性的調査が適しているのかもしれない

しかしながら

定性的調査の様々な限界に直面し（デリケートな人間関係を調査するため、インタビューに応じてもらえないこともある）、これをきっかけとして、定量的調査の可能性を探りたいと考えるように（筒井 2015）。

- 定性的調査と定量的調査の両方からアプローチすることで、実践共同体の研究の可能性が広がると考えられる。

学会当日に、「論文データ」を用いることで、実践共同体の可視化、そこで創造される知識の内容の解明を試みた成果を報告いたします。

参考文献

- Brown J. and P. Duguid(1991)“Organizational Learning and communities of practice: toward a unified view of working, learning, and innovation”, Organization Science, Vol.2. No.1 February, 40-57.
- Lave J. and E. Wenger(1991)Situated learning-Legitimate peripheral participation-Cambridge University Press.(佐伯胖訳 (1993) 『状況に埋め込まれた学習ー正統的周辺参加ー』 産業図書。
- 松本雄一 (2019) 『実践共同体の学習』 白桃書房。
- 筒井万理子 (2015) 「実践共同体の可視化: 共著関係ネットワークの分析から」 ナレッジ・マネジメント研究 (13), 35-49
- Wenger E., R. McDermott, M. Snyder(2002)Cultivating Communities of Practice, Harvard Business School Press.(野村恭彦監修、櫻井祐子訳 (2002) 『コミュニティ・オブ・プラクティスーナレッジ社会の新たな知識形態の実践ー』 翔泳社)